



## 黒髪を強要する府立高校 教員によるイジメを放置する教員たち 日本社会に蔓延する不正に対する無関心

今時、こんなことをしているのかという驚きが教育現場では起きていました。「金髪外国人でも黒に」茶色の髪の子高生に黒染め強要、府「事実と異なる点もある」(毎日放送 2017年10月27日)

「女子生徒は、頭皮がかぶれるほど黒染めを繰り返してきましたが「黒染めが不十分」と指導され、去年9月以降、不登校になりました。」

地毛が黒ではなく、茶色であるに関わらず、それを染めよなどというのは論外です。常識レベルでわかることなのに、府立高校がかかる指導(というより指導の域は超えているので強要)していたのは時代錯誤も甚だしく、人としての優しさは全く持ち合わせていないのでしょう。権威を振りかざし、それに従わせることに喜びを感じているが故にできる芸当です。

これを読むと人種差別意識まで見えてきます。

「茶髪で生まれたら普通じゃないの？」黒染めを強要された女子高生の想い」

地毛が茶色なのに黒に染める必要など全くないこと、過ぎたる「指導」がイジメであることは誰でもわかります。常識レベルです。

管理職や他の教員たちは一体、何をしていたのでしょうか。良くないとは思いますが、言えなかったのか、そもそも無関心なのか、いろいろな教員がいるでしょうが、昨今の状況は、教員のサラリーマン化が言われて久しく、無関心が多いのではないかと考えてなりません。

こうした腐敗が根絶できない組織はやはり大きな病巣を抱えていることになりま。周囲の教員たちの無関心が悪行を助長させているのです。その意味ではみな同罪です。

そして何よりも重大なことは、こうした現象は何も学校だけではないということです。日本社会全体を覆っているのです。

憲法を守らない政権。議会制民主主義を蹂躪する政権。まともではありません。従来であれば、それが自民党政権であっても「慣例」を前提に相応の対応してきたのですが(それでも問題は多々あるが)、この政権は自民党が作り上げてきた慣例ですら、ぶち壊しているのです。

そればかりか森友学園、加計学園疑惑に見られるようにお友達にはとことん優遇するという現代社会ではあり得ないようなことまでしています。

これら悪政を助長しているのは、「無関心」です。先の衆議院選挙での投票率は53.6%であり戦後2番目に低くなっています。

何となくで自民党に投票する層も「無関心」と変わりません。

「野党の質問時間を減らせとはしゃぐ自民党議員たち ここまで民主主義を劣化させた政権は憲政史上最悪だ」

こうした無関心層に支えられているのがいまの自民党政権です。

無関心の行き着く先は自滅であることを自覚すべきであるし、その結果、自らに跳ね返ってきたとしても社会を責める資格はありません。これまでの自らの無関心であったことを反省しなければならぬことです。そして、今度こそ、政治や社会を変えていくための行動を取ることで。自分だけを助けてもらおうというのは筋違いです。

BLOGS 10.29 より

先日、江南高校の生徒手帳を見せてもらいました。それには校則が事細かにかかれていて、高校生の自主性や個性を規制することばかりが書かれていました。

一方で高専生には学生手帳がありません。当然、校則というものはありません。茶髪も、ピアスもマニキュアもOKで服装も自由です。同じ高校生で、なぜこんな差になるのでしょうか？

校則が無いからと言って高専生が問題を起したなどという話はほとんどありません。自由だという事は、それと同時にすべての行動、結果は自己責任という事になるからです。

社会人として必要なことは、規則だから守るのではなく、大人として、一般常識として、モラルとして守らなければならない事は守ることなのです。

30年度から小学校の英語をはじめ、数年後の大学入試試験に向け英語が重要視されます。

しかし子供たちがグローバル化した国際社会で生きていくには英語力はさして大きな問題にはなりません。なぜなら、これからはAI搭載の自動翻訳機が簡単に何ヶ国語も翻訳してくれる事になります。

したがって、これから必要な英語力は話す、聞くではなく、さらに読む、書くがとて重要になると思います。特に理系、技術系の人たちには。

時代遅れの校則で縛り付けられ、安易な平等や過保護のもとで育った子供たちがグローバルな国際社会で生きていけるはずがありません。

少なくとも釧路の上位校くらいは、道内の他の地域と同様に制服着用の強制を廃止するべきだと思います。



## ストレス耐性の強い学生を見抜くチェックポイント

**ポイント1: 学生時代に熱中したことを訊き、その熱中度合いを確かめる**

何かに熱中した経験がない学生は、失敗を恐れたり成長する意欲が低かったりします。

反対に、それについて熱心に語り、うまく行かなかったことも恐れず話し、その体験がどう役に立ったかまでを喋ってくれるような学生であれば、ストレスにも慣れていると判断できます。

**ポイント2: 一つのことについて「なぜ？」と5回質問を繰り返す**

「それはなぜ?」「それからどうした?」「もっと詳しく」など

1つの質問に対して何度も深堀りして質問することで、行動特性や再現性の力を確かめられるうえ、5回しっかり答えられることでストレス耐性を見ることもできます。

それだけの回数答えるのはかなりの労力でエネルギーを使いますから、質問回数を重ねるにつれ投げやりになったりいい加減になったりしたら、「この学生はちょっと……」ということになるわけです。

**ポイント3: 答えにくい質問を敢えてする**

思ってもいなかった質問を投げかけることで、危機に瀕した時の精神状態を知ることができます。例えば「当社以外で行きたい会社は?」「なぜ成績表でA(優)の数がこれだけなのか」「嫌いな人を思いだし、どこが嫌いか教えて」「浪人していたらその理由を教えて」などなど。

答えの内容ではなく、思いがけない質問に対応できる力や、多角的な考え方ができるか、ポジティブな面を捉えられるかなど、思考習慣を確認できます。

ただし、「圧迫面接」になってしまわないよう注意してください。

これは面接官が意図的に意地悪な質問をしたり、横柄な態度を取ったりするもので、ストレス耐性を試す面接と言われています。

しかしやり過ぎは禁物。

ブラック企業に多い面接方法という評価もあり、匿名掲示板等書かれることも多いのです。

**ポイント4: 過去の失敗経験を訊く**

失敗は言うまでもなく精神にかかるストレスです。失敗に対する経験値を知ることができ、どの程度の精神的負荷に耐えられるかを見抜けます。「もうあんな失敗はしたくない。二度と耐えられない」という答えであれば、この先もストレスに対して弱いかもかもしれないということがわかります。

逆に、「あの失敗があったから今の自分がある」とポジティブに捉えているのなら、この学生はストレス耐性があるという判断ができます。

失敗の内容よりも、失敗に対してどのように感じたかを見きわめてください。(もちろん、どんな失敗かを知ることが、その学生の能力を判断する手がかりとなるのは言うまでもありません)

**ポイント5: 面接や筆記試験の態度でストレス耐性を判断する**

答える内容以外に、答えていたり答案を書いたりしている時の姿勢や態度である程度判断することができます。

例えば

**椅子にずれて座る**

**筆記試験ですっと肘をついている**

答えている時に神経質な仕草をする

などです。

もちろん、それらのみで判断するわけではなくあくまでも参考にすることで、ストレス耐性の有無を見きわめてください。

このように、新卒入社後3年以内で辞められてしまう率を下げるためには、あらかじめ「辞めない社員」を採用しておくべきなのです。

新卒社員が直面する実社会の現実、仕事に対する不安、経済的な現実など、働き始めてみるとストレスを感じることの連続です。

上に挙げたようなポイントで面接を行い、ぜひ頑張ってくれ続ける新卒の採用に結び付けてください。

求人広告コンサルタント スタッフソリューション

この記事は中学生や高校生にも本当に参考になると思います。企業や社会がどんな学生を求め、そしてそれを確かめるためのポイントが書かれています。

学生時代に熱中したこと、過去の失敗経験などを、「なぜ？」と5回質問を繰り返したり、答えにくい質問を敢えてしたりと、就職試験用のコンサルティングでは対応できないようなことが聞かれます。

すでに自動運転の車だったり、セルフレジだったり、あらゆるところにAIによる自動化が浸透してきています。そして年ごとにそのスピードは増えています。10年後くらいには今ある仕事の50%が無くなると言われていています。もしかするともっと早いかもしれません。

格差社会の将来に備えて、今できることは何なのかは分かっています。早く目標を決め、そこに向かって必要な学力や知識、教養を身につけることです。



掃除お疲れさまでした。ジュースを飲んで解散しました。手伝ってくれてありがとう！

